

逓信総合博物館

研究紀要



郵政歴史文化研究会編

逓信総合博物館 研究紀要

平成24年度 第4号

ISSN 2187-6029



平成24年度 第4号

ISSN 2187-6029
逓信総合博物館 研究紀要 第4号

公益財団法人通信文化協会

表紙解説

『郵便取扱の図』（逓信総合博物館所蔵）柴田真哉⁽¹⁾筆

第七図 差立郵袋の封印、計量作業

郵便物が納入された郵袋の封印作業とその郵袋の計量作業が描かれている。封印には封蝋を使っている。網と台の付いた郵袋は「泥台付網掛行のう」という。郵袋には沼津、静岡、京都、神戸等の地名が表記されているので、東海道方面への差立作業と思われる。

第八図 徒歩による運送

創業時は郵便行李を担いで宿場間を継ぎ送りしたが、この図では七図にある泥台付網掛行のうを天秤棒に両掛にして担いでいる。明治18（1885）年の「郵便物通送人服務規則」によると、最も速く走る速度は時速約10km（2里半）、その時に担いだ荷物の重さは約15kg（4貫目）であった。

1 『郵便取扱の図』については『郵政資料館研究紀要』（創刊号、2010年）表紙裏解説を参照。